

日本原子力研究所のあゆみ

年 月	出 来 事
昭和 31 年 6 月	日本原子力研究所発足
昭和 32 年 7 月	東海研究所設置
昭和 32 年 8 月	日本最初の原子炉JRR-1 初臨界
昭和 37 年 9 月	国産第1号原子力JRR-3初臨界
昭和 38 年 4 月	高崎研究所設置
昭和 38 年10 月	動力試験炉(JPDR)による日本最初の原子力発電に成功
昭和 42 年 4 月	大洗研究所設置
昭和 43 年 6 月	高速実験炉設計書を動力炉・核燃料開発事業団に引渡し
昭和 43 年10 月	日本で初めて使用済燃料からのプルトニウムの抽出分離に成功
昭和 45 年 4 月	材料試験炉(JMTR)を用いた軽水炉燃料・材料の照射研究開始
昭和 47 年 7 月	トカマク型核融合実験装置 JFT-2 稼働開始
昭和 52 年 4 月	原子炉設計用核データライブラリーJENDL-1 の完成
昭和 57 年10 月	原子核反応データ取得のためのタンデム加速器の完成
昭和 59 年 1 月	NSRR実験の結果に基づく軽水炉の反応度事故評価指針策定(原子力安全委員会)
昭和 60 年 3 月	日本原子力船研究開発事業団統合
昭和 60 年 4 月	那珂研究所設置・むつ事業所設置
昭和 61 年10 月	緊急時環境線量情報予測システム SPEEDI の実用化整備完了
平成 2 年 3 月	JRR-3 改造炉(JRR-3M)初臨界、中性子ビーム研究の進展に寄与
平成 2 年 8 月	研究 2 号炉(JRR-2)で脳腫瘍医療照射開始
平成 4 年 2 月	原子力船「むつ」実験航海成功
平成 6 年 2 月	JMTR 出力急昇試験設備において、高燃焼度燃料の試験実施
平成 6 年 9 月	電子線利用で超耐熱(1700℃)SiC(炭化ケイ素)繊維を開発
平成 7 年10 月	関西研究所設置
平成 8 年 3 月	JPDR の解体・撤去を通じて発電炉の解体・撤去技術を開発、民間への技術移転
平成 8 年10 月	JT-60 で臨界プラズマ条件(加熱入力と核融合出力の比が 1)を達成
平成 9 年 3 月	大型放射光施設(SPring-8)で放射光ファーストビーム発生
平成 9 年11 月	中性子を用いて世界で初めてタンパク質単結晶の構造解析に成功
平成 10 年 1 月	イオン照射研究施設(TIARA)により耐放射線性素子(SiC(炭化ケイ素)トランジスタ)を開発
平成 10 年 4 月	NSRR 実験の結果に基づく高燃焼度燃料の反応度事故評価指針の見直し
平成 11 年 3 月	NUCEF 実験結果に基づく臨界安全ハンドブックとりまとめ
平成 11 年 5 月	自由電子レーザーで世界最高出力(2.34kW)を達成
平成 13 年10 月	海水中ウラン捕集の実海域試験に成功
平成 13 年12 月	高温工学試験研究炉(HTTR)で原子炉出口ガス世界最高温度(850℃)を達成
平成 14 年 6 月	大強度陽子加速器施設の現地工事開始